

令和4年度 すこやかメールマガジン 第811号【子どもの視座に合わせる】12月8日配信

みなさん、こんにちは。県立生涯学習推進センターメルマガ担当です。

昨日、12月7日は、二十四節気の「大雪（たいせつ）」でした。「雪がよいよ降り積もってくる」という時期で、その通り、県内各地域で雪が降りました。

さて、先日、「子育て・家庭教育相談担当者研修会Ⅱ」を開催しました。講師に常磐大学 人間科学部 心理学科 教授 秋山 邦久 氏 をお迎えし、「個の問題に応じた家族支援の在り方～『発達障がい』を中心に～」のテーマのもと、講義・事例研究が行われました。「発達障がい」がテーマということで、日々、子どもたちやその家族へ対応をしている方々含め、多くの参加となりました。

秋山先生の話聞き、参加した皆さんは、発達特性のある子やその家族への支援について、具体的な事例から、「どうしてうまくいかないのか」と、もやもやしていたことがすっきりして、明日からの支援に見通しがもてる具体策や元気をたくさんいただいたようです。

参加者の感想を一部紹介します。

- ★子どもの発達に合わせた支援の大切さを実感しました。発達特性を持っている子に応じた支援をプログラムし、その子の未来を思い描きかわりをもつこと、保護者の方へ日頃から言葉がけを大切に接することを今後も行っていきたいと思いました。
- ★家族支援について、どのようなマインドで向き合えばいいか、自分の中で迷いがありました。秋山先生が「優しさ・誠意・思いやりで見守りましょう」ではなく、「個別・具体的にどうすればいいかが大切」と言われたとき、こんなお話が聞きたかった！！と思いました。
- ★支援する立場として気になる所があっても、低学年の場合、「様子をみましょう」という流れが多く、高学年になって問題行動が見られるようになって、やっと対応をするという事があります。子どものために、早い段階での適切な支援が有効という事やどのようなかわり方が望ましいかが分かったので、自分の対応が本人や家族に合っているのか考えながらアップデートしていきたいと思います。

子育てでも、親は自分が当たり前だと思っていること（先入観や価値観）を子どもに押し付けがちになりますが、それを（秋山先生がおっしゃっていましたが、なくすのは無理なので）、一度胸にしまって（秋山先生の表現では「() かっこに入れて」）、何でも感心しながら関心を持って、そして、目の前のこと（点）だけでなく、未来を見据えて（線）、子どもに向き合うことが大切だということを改めて考える機会となりました(*^*)v

☆子育てに関する悩みを一緒に考えます☆

子育て電話相談「すこやかダイヤル」 0198-27-2134

☆メルマガへのご感想、アドレス変更・配信停止はこちらへ(^_^)/

kosodatem@pref.iwate.jp

★=====★

【発行・文責】岩手県立生涯学習推進センター

【HP】<https://manabinet.pref.iwate.jp/hp/>

【Twitter】<https://twitter.com/manabinetiwate>

★=====★